

学術振興 (遠山椿吉賞)

すべての人びとのいのちと環境のために

2008(平成20)年度、当法人創業者、医学博士遠山椿吉の生誕150年、没後80年を記念して創設した、公衆衛生と予防医療の分野における研究者を対象とした顕彰制度です。「遠山椿吉記念 食と環境の科学賞」と「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」を設け、隔年で選考顕彰します。2015(平成27)年度から、若い研究者を支援する「山田和江賞」も、新たに加わりました。2022(令和4)年度は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、規模を縮小しての授賞式を執り行いました。



遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞

2022(令和4)年度は、食品の安全、食品衛生、食品の機能、食品媒介の感染症・疾患、生活環境衛生を重点課題としました。「遠山椿吉賞」は日本の公衆衛生において、人びとの危険を除き、命を守るために、先駆的かつグローバルな視点を持ち、地道に社会への貢献を追求する研究者(個人または研究グループ)を顕彰する賞です。「山田和江賞」は、40歳以下(応募年の4月1日現在)の応募者に対し、その優秀な研究成果を顕彰するとともに、研究のさらなる発展を奨励する目的で、賞状、記念品および賞金100万円を贈呈し顕彰するものです。故山田和江名誉理事長・医師の、50余年にわたるご貢献を記念して創設されました。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞



堤 康央 (つつみ やすお) 氏

大阪大学大学院 薬学研究科 名誉教授

「食品に含有されるナノマテリアルの次世代影響等、
安全性評価に関する研究」

副賞 300万円

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞 山田和江賞



伴戸 寛徳 (ばんど ひろのり) 氏

旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授

「食品媒介性原虫の潜伏感染メカニズムの解明と
制御技術の新規開発」

副賞 100万円

選考の過程

2022(令和4)年3月から学会等192団体およびマスメディア67媒体に資料を送付し、日本全国の大学関連学部学科391ヶ所、主な研究機関等95ヶ所に応募案内を送り、6月末日には25件のご応募をいただきました。

選考プロセスは、一次審査・選考委員会という二つのステップで進めました。一次審査では、各選考委員に25件すべての応募論文に目を通していただき、四つの評価軸(①公衆衛生への貢献度、②研究・技術の独自性、③技術の普及の可能性、④社会へのインパクト)で五段階評価を付けていただきました。評価票の集計資料は各委員に事前に読んでいただき、選考委員会では本賞の趣旨と本年度の重点課題を確認し、十分に討議を重ねて受賞候補者の選出に至りました。

この選考委員会の結論は、当法人・医療法人合同の経営会議にて選考委員長よりご報告いただき、お二方の授賞が決定しました。

- 3月「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」広報ホームページ掲載
- 4月 公募開始
- 25件 応募
- 6月末日 締め切り (7月～9月 選考プロセス)
- 遠山椿吉賞 選考
本賞・山田和江賞 推薦
- 8月 選考委員会
- 10月 経営会議で決定
- 2月 授賞式・記念講演会 食社会



創業者 遠山 椿吉 (とおやま ちんきち)

1857(安政4)年、山形県生まれ。東京大学医学部において別課医学を修めた後、山形県医学校長心得などを歴任。1888(明治21)年、東京医科大学撰科に入学し、衛生学および細菌学を研究。1890(明治23)年1月、帝国医科大学国家医学科に入学、同年4月卒業証書を授与される。1891(明治24)年、東京顕微鏡院の前身である東京顕微鏡検査所を創立。かたわら東京慈恵医院医学校(東京慈恵会医科大学の前身)講師、東京市衛生試験所長などの職を兼ねる。特筆すべき業績は、東京顕微鏡学会の創立、ペスト菌の研究、脚気の治療方法の研究、東京の水質管理を担い、水道の衛生管理に尽力。また保健部を新設し、予防医療を展開するなど多岐にわたる。機関紙「顕微鏡」「東京顕微鏡学会雑誌」を主宰し、医事衛生に関する数多くの著書や短歌を残し、華道、庭園学などについても著述している。亡くなる1年前にそれまでの人生を振り返り、思想哲学をまとめ「人生の意義と道徳の淵源」を上梓した。1927(昭和2)年、東京顕微鏡院を財団法人とし、初代院長に就任。1928(昭和3)年10月1日逝去。享年71。

2月8日 遠山椿吉賞授賞式・受賞記念講演会・お食事会

日 時：2023(令和5)年2月8日(水)
会 場：ホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)
参列者：受賞者および関係者、選考委員、関連研究者、
報道関係者、当法人関係者など40名

「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」の授賞式・記念講演会・お食事会を、2023(令和5)年2月8日(水)にホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)にて開催しました。授賞式には、選考委員の先生方を始め、研究者、報道関係者ほか当法人関係者など、40名を超す参列者が祝福に集まりました。

授賞式 式次第

- ◎授賞式(本館3階 春琴)
開式の辞 一般財団法人 東京顕微鏡院
副理事長、公益事業室担当理事
医療法人社団こことからの元氣プラザ
副理事長 高橋 利之
- 選考委員紹介
選考委員長講評・ 公益財団法人黒住医学研究振興財団
受賞者紹介 理事長 渡邊 治雄
(国立感染症研究所 名誉所員〈元所長〉)
- 表 彰
- 祝 辞 一般財団法人 東京顕微鏡院
医療法人社団こことからの元氣プラザ
理事長 山田 匡通
- 来賓祝辞 内閣府食品安全委員会 委員 川西 徹
大阪大学微生物病研究所
感染機構研究部門 高等共創研究院
教授 岡本 徹
- 受賞者挨拶 大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授 堤 康央
旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座
准教授 伴戸 寛徳
- ◎受賞記念講演会(本館3階 春琴)
講 演 堤 康央
伴戸 寛徳
- ◎受賞記念お食事会(本館3階 千鳥)

◆開式の辞



高橋 利之

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こことからの元氣プラザ副理事長

本日はこの授賞式に大勢の皆さまにお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。この数年では、オンラインで表彰式のみで開催をしていた状況ですが、授賞式を対面で開催するのは本当に久しぶりでございます。授賞式終了後にお食事をご用意しておりますが、コロナの流行期が完全に終結したわけでありませので、着席での懇談としたいと思います。ぜひご参加いただければと思います。皆さまにお集まりいただき対面で開催できることを、私ども一同大変喜んでおります。それでは、第8回遠山椿吉賞授賞式を開催させていただきます。

◆選考委員長講評



渡邊 治雄 氏

公益財団法人黒住医学研究振興財団 理事長
国立感染症研究所 名誉所員(元所長)

今回の選考委員会では、公衆衛生の貢献度、研究技術の独自性、技術の普及の可能性、社会へのインパクトという4つの選考基準で討議いたしました。総合的に見て公平性が保たれ、その上で優秀な方が選ばれたと、選考委員会としては自負しております。

本年度の遠山椿吉賞は、大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授、堤康央先生(「食品に含有されるナノマテリアルの次世代影響等、安全性評価に関する研究」)を選考しました。ナノマテリアルは、化粧品や栄養食品など、多くの分野で活用が期待されていますが、安全性の面で、あまりデータがありませんでした。堤先生はマウス等で健康影響評価を行い、今後はヒトへの影響について研究されるということで、社会的なインパクトも高く、満場一致で選ばれました。

続いて山田和江賞は、旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授、伴戸寛徳先生(「食品媒介性原虫の潜伏感染メカニズムの解明と制御技術の新規開発」)を選考しました。トキソプラズマは動物からヒトに感染した際、致死的な影響を及ぼす脳症状を起こしますが、伴戸先生は、感染のメカニズムを理解し、治療法の開発に取り組んでおられ、さらなる成果を上げることを期待して、こちらも満場一致で選ばれました。両方とも、今後の研究が非常に期待される分野ですので、この受賞が他の研究者の引き金となってくれることを期待しております。本当におめでとうございます。

◆祝 辞

一般財団法人東京顕微鏡院 医療法人社団こころとからだの元氣プラザ
と記念 第8回 食と環境の科学賞



山田 匡通

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こころとからだの元氣プラザ 理事長

皆さま、本日は遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞の授賞式にご参加いただき、誠にありがとうございます。そして、受賞者の堤先生、伴戸先生に心からお祝いの言葉を申し上げます。本当におめでとうございます。

また、25件もの応募研究に対し、真摯に評価をしていただきました、渡邊先生以下、選考委員の先生方にも、心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、1891（明治24）年に東京顕微鏡院を創立した遠山椿吉博士は、赤痢、チフス、ペストなどの伝染病から人々の健康を守るため、特に東京における安全な水道水の普及に貢献され、そのころ大きな論争となっていた脚気の原因究明にも多くの業績を残されました。

戦後になり、東京顕微鏡院は私の母である山田和江によって再興されました。健康医療事業が独立し、医療法人社団こころとからだの元氣プラザとなったのが2003（平成15）年です。環境衛生を追求する東京顕微鏡院と、人々の健康、特に病気の予防について追求する元氣プラザ、現在はこの2つの事業を同時に運営しています。

創立以来、私たちが132年間追求してきた「健康な命を守り、育成して増進していく」というテーマが、まさに今回、遠山椿吉賞の研究成果として結実していると感じ、改めて受賞者のお二人に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、どのような環境であっても「健康な命」を追求する事業の継続のため、頑張っていきたいと思います。皆さまの引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。

◆来賓祝辞



川西 徹氏

内閣府食品安全委員会 委員

堤先生はいち早くナノ粒子の生体内動態について、微量同定、定量化に成功して、ナノマテリアルがマウスの血液精巣関門や血液胎盤関門等を突破し得ること、さらには胎児に影響を及ぼす可能性など、特徴的な特性を誘発し得ること等、極めて独創的な研究成果を得ました。堤先生はこの成果を活用し産業界と連携し、安全で有用なナノ食品の開発研究も行なっているという、ユニークかつ斬新な研究を展開され、ナノテクノロジーの安全性研究を先導する画期的な成果を上げてこられました。この度の遠山椿吉賞の受賞を契機に、さらに研究面で大きな展開をされ、食品安全分野での人材育成を活発に展開していただくことを、私自身大きく期待するところです。ご受賞、誠にありがとうございます。



岡本 徹氏

大阪大学微生物病研究所 感染機構研究部門 高等共創研究院 教授

受賞の研究テーマでありますトキソプラズマ感染症というのは、知る人ぞ知る非常にマイナー、けれど私たちの生活には身近にあるような感染症であり、日本でも研究者が非常に少ないような研究分野です。伴戸先生はこのトキソプラズマ感染症に関し、大阪大学微生物病研究所で始められた研究だと思います。伴戸先生は非常にコツコツと丁寧に仕事をされる印象がありますが、伴戸先生の努力の成果が山田和江賞受賞という結果に至りまして、日の目を見る結果となったことを大変嬉しく思っております。サイエンスに誠実な丁寧なお仕事をさらに発展させ、このトキソプラズマ感染症の感染の制御など、治療薬の開発につながっていくような研究をさらに展開していただきたいと祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞

堤 康央 (つつみ やすお) 氏

大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授



この度は栄えある「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」遠山椿吉賞を賜りましたこと、身にあまる光栄であり、また身が引き締まる思いです。理事長の山田先生、また副理事長の高橋先生、所長の宮田先生、理事の安田先生はじめとする一般財団法人東京顕微鏡院および医療法人社団こころとからだの元氣プラザの皆さま方、選考委員長の渡邊先生はじめとする選考委員の先生方にあらためまして御礼を申し上げたいと思います。今回の受賞に際しましては、私が学生時代から教授に至るまで、内閣府食品安全委員会委員川西先生による長きにわたる多大なるご指導、絶大なるご支援の賜物でございます。この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。本日は教え子が来てくれますけれども、彼らの努力の結晶が今回の受賞に結び付いたものであります。本当にありがとうございます。今回の受賞を励みに、今後の食品安全あるいは公衆衛生にかかるヒト健康環境の確保に関し、ますます研究教育、あるいは人材育成にまい進していく所存であります。引き続き、ご支援ご指導賜りますように、伏してお願いを申し上げます次第であります。最後に、これまで私を支えてくれました家族、特に家内に感謝したいと思います。この度は本当にありがとうございました。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞 山田和江賞

伴戸 寛徳 (ばんど ひろのり) 氏

旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授



この度はこのような栄えある賞をいただき、身にあまる光栄でございます。誠にありがとうございます。審査をしていただいた多くの先生方、また財団の各関係者の皆さま方に心よりお礼を申し上げたいと思います。寄生虫症の研究は、国内においてはほかの感染症と比較すると注目を浴びることの少ない研究分野であり、近年の日本における寄生虫症の研究は衰退が危ぶまれているというのが現状です。そういった中でこのような大変栄えある賞をいただきましたことは、私が今後も寄生虫症の研究を続けていく上で非常に大きな励みとなります。本研究はまだまだ始まったばかりの基礎研究ではありますが、今後も研究を進めていき、精進していき、将来的には多くの人々の命を救うような研究を続けていきたいと思っております。祝辞をいただきました岡本先生をはじめ、この研究を多くの先生方のご協力の下、行うことができましたこと、また、私が研究を進める上で大変お世話になってきた家族にも感謝の意を申し上げたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。